

No. 1104

美濃部・石原の対決

— 都 知 事 選 —

注目の都知事選はやはり美濃部・石原両氏の対決となった。「オンリー・美濃部・都知事候補は美濃部さんの他には誰もいない。みんなで美濃部さん三選の運動を進めよう」と上田哲議員が絶叫する。だが当の美濃部知事は「社共統一戦線は絶望」として再出馬しないと涙ながらに声明を発表した。「あれは下手な芝居だ、きっと出馬する。だがもう美濃部都政では駄目、僕が知事になったら荒廃した都政をたてなおし、新しい東京をつくる」と石原慎太郎氏はスマートな立候補の挨拶。「最後の都議会」は知事の任期が少ないというので予算審議も身が入らず。しかし恒例の“お別れの言葉”は中止。混迷を続けていた革新陣営は3月11日のトップ会談で社・共共闘が合意に達し美濃部知事の三選支持を決めた。知事もまた出馬すると言う。一般の人には良くわからない政治の裏舞台だが、そう言えば4年前にも田舎芝居というのがあった。今回の美濃部さんを「猿芝居」という人もいる。

新幹線開通の陰で

一文字村雄さん43才。100を越えるトンネルをもつ山陽新幹線の工事現場で、左足を失った。愛知県尾張旭市にある労災病院で、もう三年も闘病生活を続けている。

「ひと現場で2人か3人が死んでいますネ。皆んな身体をはって金をもらっているわけです、身体と交換に。働かないと食べて行けないわけですワ。けがするし、じん肺になるし……命ずてる人もあるしネ、足一本位なら、あきらめておりますわ」左足を失ってからも働き続けた過労から、じん肺を併発、治る見込みは殆んどない。会社からは40万円の見舞金でただけだ二人の子供をかかえ、生活に追われる奥さんは、のりの製造工場に働きに出た。「犠牲者はお父さんだけでなく、たくさんいるんです。会社はあまりにもいいかげん過ぎますヨ、けがや病気になっても特別の補償もしてくれないし、新幹線をみると、腹が立ってきます」

藤原政助さん59才。生れつき右手が不自由な藤原さんは、トビとして現場で作業中、足場から落ち首の骨を打った。広島県呉市にある労災病院に入院して2年になる。「全身が今でもしびれているんです。手が全然きかんです、いま身体、調子が悪いんでまた手術をせにゃいかんです」補償の交渉は事故後2年を経て、今だ全くやっていないという。

3月10日、太平洋ベルト地帯の動脈、東海道新幹線と山陽新幹線は結ばれ、華々しく開通式が行われた。しかし、その陰で、建設現場の下請け労働者は、今日も苦しみ続けている。東北、上越新幹線を含めると工事関係者の負傷は1万2千人、死亡は400人に及びその数は今も増え続けている。事故があっても刑事責任を問われることがない建設業界の体質、さらに労働基準法が作用しない請負い制度、五段階にもおよぶ重層下請け制度など、劣悪な労働条件の中で、下請け労働者は使い捨てられている。尊い人命を犠牲にしなが、人柱の上を今日も新幹線は走り続ける。